

## B — 6

## 効率的かつ持続可能な環境整備に向けて

高頻度接触面

頭の切り替え

最新の情報

根拠を学んでサッとひと拭き

広島市・安佐北区

ひろしまげんぱくようご  
広島原爆養護ホーム 倉掛のぞみ園

介護員 中川 正典

介護員 山根 基彰

E-Mail Address : [nozomien@hge.city.hiroshima.jp](mailto:nozomien@hge.city.hiroshima.jp) Fax 番号 082-845-6934施設（事業所）  
またはサービスの  
概要

当施設は原爆被爆者の特別養護施設として、平成4年7月に開設された介護保険適用外の施設である。入園定員は300名。ショートステイ4名。平均年齢は90歳8か月。5階建ての建物で、5フロアで構成されている。

## I. &lt;取り組み課題&gt;

2020年の初頭から猛威を振るった新型コロナウイルス。当園でも幾度となくクラスターに見舞われた。クラスターの発生要因は、入園者の面会や外出制限をしていた事から、職員の持ち込みと考えられる。

また、クラスター発生時には、一斉にフロア内の環境整備が行われていたが、終息と共にその頻度が減っている。「感染症の広がり防ぐには感染経路の遮断が重要だ」という事は既に周知の通りだが、どうすれば職員の共有スペースの環境整備が継続していけるのかという事を検討した。

## II. &lt;具体的な取り組み&gt;

## 1 環境整備について学ぶ

- (1) 広島市立舟入市民病院感染管理認定看護師による感染対策研修受講や園内の実地指導を受ける
- (2) サラヤ株式会社様でのWeb研修や商品説明
- (3) 厚生労働省のホームページを参照

## 2 当園での環境整備の現状を把握する

- (1) 環境整備場所について
- (2) 環境整備物品について

## 3 環境整備についてのアンケートを実施し、集計する

## 4 アンケートから見えた当園の環境整備の問題点

- (1) 業務が多忙で、環境整備に対する意識が薄い。
- (2) 環境物品が多く、使い分けが分からない。
- (3) どこをどの様に整備したら良いか分からない。

## 5 抽出された問題点より解決策を検討する

- (1) 環境整備マニュアルの作成
- (2) 環境整備物品の見直し
- (3) 職員間での環境整備の周知
  - ・環境整備ポスター兼チェック表を作成。
  - ・環境整備係の担当者を介し、各フロアに周知する。

## III. &lt;活動の成果と評価&gt;

## 1 環境整備マニュアルの作成について

Web研修や実地指導等を受け、環境整備の方法として平常時と感染症対策時の違いを意識して職員一人一人が環境整備を行う事ができるように、図解や根拠などの要点を絞り、一目で見分かりやすいマニュアルを作成した。

## 2 環境整備物品の見直しについて

目的に合った製品を正しく選び、正しい方法で使うことが大切であると学び、平常時と感染症対策時にも使用でき、物品管理や価格が安価なサラサイド除菌クロスを選定し、クロス類を使い分ける必要がなく、簡単に拭拭することができるようになった。

## 3 職員間での環境整備の周知について

ポスター兼チェック表を作成し、環境整備係の担当者を介して、各フロアへの周知がスムーズにでき、毎日決められた時間に職員が一斉に環境整備を実施できるようになった。

現在、各フロア共通で13時45分からの申し送り前に全員で行っている。

## IV. &lt;今後の課題&gt;

今回作成したマニュアルやチェック表は平常時での対応方法となっているため、将来また感染症対策となった場合はその時々に応じた対応が必要となるため、頭の切り替えが必要である。

最新の方法や物品の情報をキャッチし、その都度マニュアルを見直す必要がある。

## V. &lt;参考資料など&gt;

- ・厚生労働省ホームページ
- ・製品評価技術基盤機構ホームページ